

沿革

懐徳堂

1724年に大坂町人によって創設された学問所。約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献し、一時は江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇ったと伝えられ、中井竹山・履軒兄弟をはじめ、富永伸基・山片蟠桃などのすぐれた学者を輩出した。1945年の大阪大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれ、幸いに戦火を免れた3万6千点の資料は、1949年に大阪大学に寄贈されている。



懐徳堂旧趾碑

適塾〈史跡・重要文化財〉

1838年に緒方洪庵が開塾し、1845年に現在の大阪・北浜に移転した蘭学塾。西洋の進んだ医学、病理学などの学問を教える一方、当時流行した天然痘やコレラなどの治療にあたりとともに、医療の普及と向上に努めた。医師であり優れた教育者でもあった洪庵の下で学んだ塾生は、のちに明治の近代化の原動力となり、福沢諭吉、長与専斎、大村益次郎、橋本佐内、大島圭介など多くの逸材を輩出した。



適塾外観



緒方洪庵

大阪外国語学校

1921年に大阪の実業家である林蝶子が「大阪に国際人を育てる学校を」という理念のもとに、学校設置資金として私財100万円を国家に寄付したことにより、政府は、この寄付金を基に大阪市天王寺区上本町の地に支那、蒙古、馬來、印度、英、仏、独、露、西の9語部からなる大阪外国語学校を創設した。以後、外国語教育・研究の西の雄として大きく発展するとともに、司馬遼太郎などの著名な卒業生を輩出した。

大阪外国語学校
上八校舎門標

大阪帝国大学の創設

府立大阪医科大学を母体に、1931年に医学部と理学部からなる大阪帝国大学が設立された。「大阪にも帝国大学を」と、大阪の政官、経済界がこぞって国に強く働きかけ、市民や有志も設立のための寄付や支援を行い創設に至ったという歴史をもつ。「地元大阪と市民の力によってつくられた大学」という特色を有している。初代総長の長岡半太郎は東大、京大をも凌ぐ大学を目指し、新進気鋭の俊英らを全国から集めた。のちに講師として迎えられた湯川秀樹もその一人。



長岡半太郎初代総長

大阪外国語大学と統合

2007年10月1日、それぞれに長い歴史と伝統を持つ大阪大学と大阪外国語大学が統合した。ともに市民の厚い支援によって建学された両大学は、長らく大阪市の北と南で並び立ってきたが、その後、相次いでその拠点を北摂の地に移していた。統合により、北摂に3つのキャンパスを構える日本有数の国立大学として、新たな大阪大学が誕生した。



吹田キャンパス



豊中キャンパス



箕面キャンパス

